

「学力向上への主体的な取組を促す研修へ」

—全市一斉研修スタイルからの脱却—

新潟市教育委員会

はじめに

新潟市教育委員会では、新潟市学力向上委員会を立ち上げ、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善フォーラムを開催してきた。このフォーラムは全国学力・学習状況調査の初年度から始まり、3回実施してきた。毎回市内の全学校・園の研究主任を集め、結果分析に基づいた授業改善のあり方を指導主事が授業を通して提案してきた。新潟市の結果を授業改善のポイントとして焦点化して伝え、その一例を実際の子どもたちへの授業を通して示し、国立教育政策所の教科調査官からの指導という流れであった。

しかし、新潟市は全国平均を下回る教科が増え、学校間の差も広がってきた。その一因として、各校における調査結果の活用状況にばらつきがあり、なかなか解消できないことが挙げられた。全市一斉に行うトップダウン式の研修会では、参加者の問題意識が醸成されず、主体的な取組が促されないためではないかと考えた。

そこで、より小さな集団で、それぞれの学校の実態に応じた改善策を共に考える研修会を開催することで、参加者の主体的な取組が促され、結果の積極的な活用につながると考えた。

I. 都道府県・指定都市教育委員会における取組

1. 事業内容について

(1) 事業概要

平成22年度、新潟市は全国学力・学習状況調査に全校参加することとした。従来からの取組である「新潟市全体の調査結果の分析」「市内の全学校・園の研究主任を集める授業改善フ

ォーラムの開催」は継続し、そこに、行政区を単位とした授業改善研修会の実施を付加した。具体的には、次のように本事業を推進した。

① 全国学力・学習状況調査への全小・中学校の参加

全国学力・学習状況調査に全校参加し、希望利用校の採点・集計を業者委託した。アクションプラン推進協議会で新潟市内の結果を分析、考察した。

② 区単位の研修会の実施

全市一斉ではなく、行政区を単位とした「授業改善研修会」を実施した。参加者に自校の実態把握を事前に求め、研修会当日は、少人数での協議会を通して、主体的な問題解決を促した。そこに、アクションプラン推進協議会委員が提案を行うとともに、外部講師が全体指導を行った。

③ 新潟市全体の底上げの実施

区単位の「授業改善研修会」を踏まえ、その成果を研修会のなかった6つの区の教員を対象に、全市で共有するために「授業改善フォーラム」を開催した。

(2) 実施体制

アクションプラン推進協議会
・全国学力・学習状況調査の分析
・「授業改善研修会」の開催

報告 ↓ ↑ 支援

新潟市教育委員会
・アクションプラン推進協議会の委員の委嘱
・「授業改善研修会」の開催通知

依頼 ↓ ↑ 協力

区教育事務所（区担当指導主事）
・区の「授業改善研修会」への支援

(3) 研究成果

新潟市内で8つある行政区のうち、2区で「授業改善研修会」を実施した。

① 指導アイデアシートの導入

実施前に「指導アイデアシート」の作成を、全参加者に以下のように求めた。

自分が参加する校種・教科の指定された課題について、以下の二つを書く。

- ① 所属校の様子（所属校の平均正答率を記入して、解答類型や授業などからその課題にかかわる児童生徒の様子を書く。）
- ② 授業の構想（児童生徒の実態を受けて、どのような授業を展開するか、できるだけ具体的に書く。）

課題は、新潟市内で平均正答率が低い設問を中心に、以下のように設定した。

1 小学校国語

- 課題1（国語A） 設問番号3 物語の登場人物の関係をとらえて書く
- 課題2（国語B） 設問番号2-（1）物語を読んで、指示された部分についてあらすじを書く
「授業の構想」については、教科書5年下「大造じいさんとガン」において、上記の課題を意識してどのような授業を展開しようとするかを書いてくる。

2 中学校国語

- 課題1（国語A） 設問番号3-1 演説の話し方の特徴として適切なものを選択する
- 課題2（国語B） 設問番号2-3 資料の修正の方法を選択し、修正の具体的なやり方とその理由を書く
「授業の構想」については、教科書2年「ポスターセッションをしよう」において、上記の課題を意識してどのような授業を展開しようとするかを書いてくる。

3 小学校算数

- 課題1（算数A） 設問番号1（6） 加法と乗法の混合した計算「 $50 + 150 \times 2$ 」
この問題は過去4回の調査でも、類似の問題が出題されている。「所属校の様子」には、前年度に比べ、正答率に変化がみられたかを書いてくる。（「①高くなった ②変わらない ③低くなった」も書いてくる。）
「授業の構想」については、教科書4年下、P59～61において、加法と乗法の混合した

計算の指導を、どのように行おうと考えるかを書いてくる。

- 課題2（算数B） 設問番号6（2） バスのドアが動く様子を表した図を見て、円周の一部と直線の長さの大小についての正しい記述を選び、判断のわけを書く
この課題2の問題は、大変に正答率が低くなっている。この課題2においては、「授業の構想」欄に、「この問題の難しさはどこにあると考えるのか」を書いてくる。

4 中学校数学

- 課題1（数学A） 設問番号1-1（1） 変化の割合を求める
「授業の構想」については、教科書2年、P54～55において、変化の割合の指導をどのように行おうと考えるかを書いてくる。
- 課題2（数学B） 設問番号2（2） 連続する3つの奇数の和が3の倍数になることを証明する
この問題は過去4回の調査でも、類似の問題が出題されている。「所属校の様子」には、前年度に比べ、正答率に変化がみられたかを書いてくる。（「①高くなった ②変わらない ③低くなった」も書いてくる。）
「授業の構想」については、教科書2年、P20の例1、問1のような「整数の性質の証明」に関して、どのように指導しようとするかを書いてくる。

② グループ演習の組織

当日の研修会は、グループ演習と講演で構成した。グループは4～5人で編成し、全グループにアクションプラン推進協議会の委員が入るようにした。グループ演習は以下のように行った。

- ア 自己紹介（5分）
- イ 共通課題1（全国学力・学習状況調査の問題A）の自校の実態及び改善策の発表～討議（30分）
全員の発表後、付箋と大洋紙を用いて、改善策を類型化して整理した。それに基づいて、意見交流をした。
- ウ 共通課題2（全国学力・学習状況調査の問題B）の自校の実態及び改善策の発表～討議（30分）
共通課題1同様に進めた。
- エ アクションプラン推進協議会の委員からのアドバイス（15分）
 - ・共通課題1と2について
 - ・それ以外の問題について

北区及び東区授業改善研修会では、当該地区の小学校4・5学年の学年主任と中学校の国語と数学担当者全員を対象とした。

北区及び東区授業改善研修会の講師として、国立教育政策研究所の榊山敏郎学力調査官と清水宏幸学力調査官を招聘した。

③ 研修会の実際

◎ 北区授業改善研修会

(平成22年10月25日実施)

○ 参加者数83人

【国語部会】

小学校12人 中学校17人 計29人

【算数・数学部会】

小学校11人 中学校17人 計28人

委員・講師 26人



講師の国立教育政策研究所の清水先生のご指導を聞く参加者

◎ 東区授業改善研修会

(平成22年12月6日実施)

○ 参加者数117人

【国語部会】

小学校17人 中学校28人 計45人

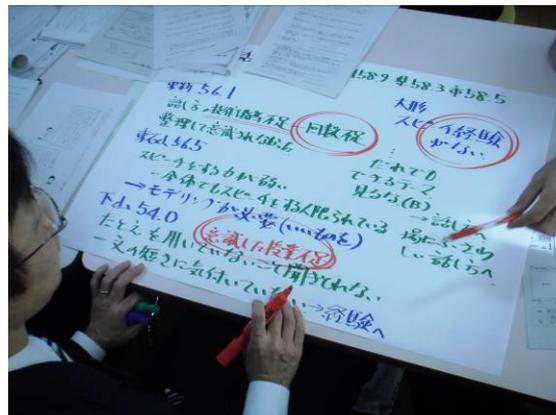
【算数・数学部会】

小学校17人 中学校29人 計46人

委員・講師 26人



グループ演習で話し合う参加者



グループ演習での記録

④ 研修会での反応

東区授業改善研修会で実施したアンケートの自由記述から。

○ 国語部会に参加した教師の記述

- ・先生方と話し合うことで、話す聞くについて、特にスピーチ、資料について本当によく考える機会となり、勉強になりました。
- ・話し合いを進めるうちに、皆同じことを考えていたことがわかり反省するとともに、今後の授業に生かせる有意義な時間を過ごすことができました。長時間でしたが、足りないくらい充実していました。

○ 算数・数学部会に参加した教師の記述

- ・他の学校の実態を知ることは少ないので、それぞれの実態や課題、改善のための手立てが共有できてよかったです。協議会委員の先生方の的確な助言で話し合いが焦点化されて、短い時間にたくさんの内容を話し合うことができました。
- ・大変に有意義なものでした。改善策も、何を重要視していくか論点が明確になり、自分の授業に生かしたいことが多くありました。数学について話をしているとどの先生方も熱く、主張があり、時間がたりないくらいでした。このような討議を常に行えばよいのですが、

日常ではなかなか時間が取れないことが問題だと思いました。



グループ演習に参加する講師の国立教育政策研究所の権山先生



付箋を活用したグループ演習

⑤ 考察

いずれの「授業改善研修会」でも、以下のア～エの工夫の効果が表れ、参加者は授業改善のあり方を具体的に知るとともに、参加したことに充実感をもっていた。

ア 事前に自校の全国学力・学習状況調査の結果に基づいた授業改善の在り方を考えてからの参加を促したこと

イ 同じ傾向をもつ同一区の教員同士での協議会を設定したこと

ウ アクションプラン推進協議会委員からの一方的な伝達ではなく、少人数で参加者自身が課題の解決策を話し合う研修会にしたこと

エ 国立教育政策研究所の学力調査官の話を直接聞く場を設定したこと

2. 普及啓発と今後の取組について

(1) 成果の普及啓発に関する取組

区単位で行った「授業改善研修会」を踏まえ、その成果を研修会のなかった6つの区の教員を対象に、全市で共有するために「授業改善フォーラム」を開催した。

① 授業改善フォーラムの実施

(平成23年1月18日実施)

○ 参加者数203人

【国語部会】

小学校45人 中学校12人 計57人

【算数・数学部会】

小学校75人 中学校33人 計108人

【研究主任部会】

中学校12人

委員 26人

授業改善フォーラムの講師として、国立教育政策研究所の永田潤一郎教育課程調査官を招聘した。

この授業改善フォーラムでは、北区と東区以外の区の小中学校から自校の学力実態に応じた参加者の選出を要請した。

授業改善フォーラム2011についても、北区と東区の「授業改善研修会」の持ち方を踏襲した。具体的には、全国学力・学習状況調査の新潟市の結果とそこから導かれる授業改善のあり方について、演習や模擬授業を通してより具体的に説明することにより、参加者の主体性を促すことができた。そのことが、次ページのような参加者の肯定的な評価に結び付いたと考えられる。



算数・数学部会で話し合う参加者

授業改善フォーラム2011
 参会者アンケートの集計結果

分科会評価

評価内容	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	中学校研究主任
とてもよかった	31	51	7	18	7
よかった	16	21	3	17	3
あまりよくなかった	1	0	0	0	0
よくなかった	0	0	1	0	0
計	48	72	11	35	10

講演会評価

評価内容	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	中学校研究主任
とてもよかった	14	28	8	14	4
よかった	34	43	3	20	6
あまりよくなかった	0	1	0	1	0
よくなかった	0	0	0	0	0
計	48	72	11	35	10

② 授業づくりリーフレットの作成

この3回の研修会で導かれた授業改善の方策を次のようなリーフレットにまとめ、新潟市内の全職員に配付した。ここには、過去4年間の全国学力・学習状況調査の結果から導かれた知見も含め、授業づくりについてまとめている。

授業づくりの視点

○教材と向き合い、その教材の価値、学ぶ意義をとらえる



新潟市では、
次の授業を目指します！

- 確かな学力を育む授業
- 学ぶ楽しさ、学ぶ意義を実感できる授業
- 学び合い、高め合う授業



新潟市教育委員会

確にし、そのしたのかを事価値する

通しをもって何を学んだかできるようにする

こととのかかし、問題解決展開する

合わせた、多様を組織する

(2) 来年度以降の取組

新潟市では、冒頭でも書いたように、指導主事が提案授業を行い、それを通して全国学力・学習状況調査の結果に基づく授業改善のあり方を提案してきた。授業を参観することで分かりやすかったとの評価も多かったが、受動的に話を聞くだけの参加者も多かった。

今年度の3回の研修会では、主体的に話し合う参加者の姿が見られた。これにより、問題意識をもった参加者がそこで学んだ内容を、より積極的に自校で伝達することが期待できる。

そこで、来年度以降は、次のような研修会を開催していく。

- 事前に自校の結果に基づいた授業改善の在り方を参加者自身が考えてからの参加を促す。
- 委員からの一方的な伝達ではなく、少人数で参加者自身が課題の解決策を話し合う研修会にする。
- 作成したリーフレットを活用する